

# 余暇のひととき

文化協会より

## 川柳

△川柳鹿の子吟社▽

過去のこと思い出して川柳記  
過疎のバス皆善人の顔で揺れ  
この孫の行く先見えぬ喜寿傘寿  
口火切る勇気を当てにして無言  
人生も自然のひとつ野辺の花  
細腕にジョークも混じる力こぶ  
どちら迄ちよつとそこ迄にっぽん語  
公僕の姿勢問われる地位利用  
席空けて心の隅で笑顔待つ  
知人から電話嬉しい長話

大 西 静 峰  
片 山 辰 巳  
加 藤 桂 子  
古 本 鈴 代  
杉 田 温 州  
中 川 ま さ 子  
西 村 美 保 子  
程 内 玄 雄  
益 田 岩 郷  
結 城 と き え

## 短歌

△つしま短歌会▽

一滴文庫に吾ら学びき短歌の道教へ給ひし君熱かりき  
唐紙に貼りし「かえり船」の歌詞カード兄の「おはこ」を吾も覚えぬ  
遅かりし息子の娶りに安堵せし夫を思ひて香をたむけぬ  
二十号で終刊となりし「宇和島の空襲」幼かりしも忘れ得ぬ日々よ  
風車建つる「入らずの森」の魔ものらは「人は魔もの」と怖れるらむ  
憲法九条互みに譲らぬはらからの野球に話題変りてなごむ

中 村 美 鈴  
三 浦 稔 子  
西 崎 美 紀 子  
常 盤 市 子  
清 家 源 太 郎  
清 家 幸 子

## 俳句

△桃李句会▽

怯むなど妻にはなくて百足打つ  
うたた寝の夢の続きの蕨取り  
若草や宇和の山家に小雨降る  
雷荒れて赤き自転車倒れ込む  
母の手をしかとつなぎて螢狩り  
太刀魚の一本ひきぬき伊予の海  
選挙カー蝉しぐれまで巻き込んで  
あちらには親しき人も盆の月  
盆の月父の背中に追ひつけず

齊 藤 真 人  
横 山 博 子  
菊 地 滋 子  
宇 都 宮 千 賀  
荒 川 元 子  
今 城 夏 枝  
大 野 き よ 女  
竹 田 あ り さ  
谷 岡 武 城

△木賊句会▽

夭折のいまだ終わらぬ終戦忌  
晩節を生き抜く証し菊の酒  
瓜の馬茄子の牛とて飾りけり  
古茶を汲み語りつくせぬ遠忌かな  
カルストの波打つ牧や土用東風  
秋ふるる城の白亜に白浪に

櫻 井 健 二  
松 秋 声  
金 田 八 重 子  
松 影 美 鈴  
三 浦 尚 子  
西 川 よ う 子

△洪柿 葉月会▽

晩鐘の余韻吸はるる秋落暉  
蓑虫の糸一本の孤独かな  
母親も着飾りをりぬ七五三  
頬杖に深き秋思のロダン像  
秋高し山の稜線くつきりと  
風に舞ひ流れに乗れる紅葉かな  
笑む曾孫あやす百歳菊日和  
やはらかき笑み絶やすまじ菊日和  
光溢るる四国カルスト花芒

中 川 久 子  
村 重 瑠 璃 子  
中 島 は る か  
佐 藤 節 子  
三 浦 信 子  
梶 原 暉 子  
竹 内 ひ さ  
池 田 篤 子  
三 原 美 加